

テスト名	SST				TSST	
1. 運営事業団体	ALC				ALC	
2. テスト作成母体	ALC				ALC	
3. 主たる受験対象者	日本人英語学習者				日本人英語学習者	
4. 目的	語を創造する能力の測定				簡易に英語学習者の英語運用能力を評価する	
5. 構成概念の構成(測定する能力)	スピーキング能力				スピーキング能力	
6. テストの性質(テキスト・タスクの性質など)・項目数	対面インタビュー形式で以下の5ステージを15分間で審査する。 ステージ1:ウォームアップタスク(3~4分) 簡単な質問を通し、受験者の質問を解く、試験官が受験者のレベルを想定する目的	ステージ2:写真描写問題(2~3分) 目の前の具体的な内容を「描写」する能力を審査する。ポーズ、発音、現在時制のセンテンスの作り方などから「ステージ1」で得られたレベルの印象が検証される。	ステージ3:ロールプレイ(1~4分) 特定の状況下で、その場にふさわしい表現ができるかが審査され、内容、理由付けなど役割に伴った内容を表すように促される。	ステージ4:絵を見てストーリーを作成する(2~3分) 試験官が提示した絵を使って過去や現在の出来事をめぐる一つの「話」を作る。話の運び方や叙述の仕方が審査される。	ステージ5:フォローアップ問題(1~2分) 最後にまた、緊張を解くようなクロージングの質問がされる。	自動音声による固定電話を利用したインタビューテスト 予め録音された大量の質問の中から、コンピュータがランダムに質問を選び、出題される。毎度異なる問題が出題されるため、同じ問題やレベルの偏った問題が出ることはない。 質問は「日本語」→「英語」の音声で聞くことができる。 回答時間は各問45秒ずつで、全10問が与えられる。 タスク内容、形式については非公開
7. 採点基準	SSTレベル概要に準拠し、総合的に評価する。 総合的タスク(英語を使って何が出来るか) 発話の方(発話の量とその構成) 正確さ(文法、語彙、発音、流暢さ、社会言語学上の適切さ) 内容(どのような内容について話せるか)				TSSTレベル概要に準拠し総合的に評価する。 同左	
8. 得点	レベル判定のため得点の表示はない					
9. 評価・Feedback	総合的に初級(レベル1~3)、中級(レベル4~8)、上級(レベル9)で判定 試験日より3週間後に結果が郵送される				総合的に初級(レベル1~3)、中級(レベル4~8)、上級(レベル9)で判定 試験日より5営業日目にウェブで結果の閲覧が可能 言語機能、テキストタイプ、語彙、文法、発音・流暢さについての能力が提示され、アドバイスも与えられる。	
10. 受験時間	15分程度				8分程度	
11. 受験者数	非公開				非公開	
12. 受験料	10,500円				8,400円	
13. ウェブサイト	http://tsst.alc.co.jp/sst/				http://tsst.alc.co.jp/	
14. その他(変化・特徴)	現在、企業・学校で申し込まれる団体受験のみ実施されている。また、高校生以上(16歳以上)のみ受験可能。				固定電話のみ受験可能。	

感想

SSTは英検と同じように、対面インタビューを行なっているため、表面的妥当性が高いと思われる。短い時間で受験できるのも利点で、団体受験の際、例えば大学等でこの試験を利用する際にも回転が早いため利用しやすいだろう。(Y.Y.)